

田村栄一郎教授年譜・研究業績

〔略 歴〕

＝大正14年5月6日大阪で生まれ、のち新潟に転居＝

- 昭和20年3月 新潟高等学校文科卒業
昭和20年4月 東京帝国大学文学部社会学科入学
兵役のため休学
昭和22年4月 復学
昭和25年3月 東京大学文学部社会学科卒業
昭和25年4月 東京大学文学部大学院入学
昭和27年3月 東京大学文学部大学院修了

〔職 歴〕

- 昭和26年5月 文部教官に任官 東京学芸大学助手
(社会学教室)に就任
昭和28年5月 東京学芸大学講師に昇任
昭和33年1月 東京学芸大学助教授に昇任
昭和43年4月 東京学芸大学大学院教育学研究科兼担
昭和48年5月 東京学芸大学教授に昇任
昭和52年4月 文教大学人間科学部非常勤講師に就任
(平成元年3月まで)
昭和60年4月 東京学芸大学附属養護学校長に併任
される(平成元年3月まで)
昭和62年4月 東京学芸大学大学院教育学研究科◎
教授に認定される。
平成元年3月 東京学芸大学を定年退職
平成元年4月 文教大学人間科学部教授(社会学専修)
に就任
平成元年5月 東京学芸大学名誉教授の称号を授与
される。
平成5年4月 文教大学大学院人間科学研究科担当
(生涯学習学専攻)
平成8年3月 文教大学を定年退職

なお、この間に埼玉大学・山梨大学・東京大学の各教育学部、鹿屋体育大学、創価大学・帝京大学の各文学部、武蔵大学人文学部に非常勤講師として出講



〔活動歴〕

昭和25年4月～現在

- 日本社会学会会員
日本教育政策学会会員
日本教育社会学会会員
日本教育社会学会事務局会計部長、編集部長、庶務部長、編集委員、理事、会計監査、評議員を歴任

〔研究業績〕

＝著書・編書＝

- 『ナショナリズムと教育』 昭和39年8月5日、東洋館出版社。
- 『現代社会の教育政策』(清水義弘監修「現代教育社会学講座」第5巻、潮木守一との共編)昭和51年5月25日、東京大学出版会。
- 『現代青年の社会観・生活観』(岡崎友典・佐藤郡衛との共著)昭和56年7月30日、現代青年研究会。
- 『日本の教育とナショナリズム』昭和63年4月15日、明石書店。

＝翻 訳＝

J. ハーディング、B・クットナーほか『偏見と人種関係』(G. リンゼイ編、清水幾太郎・日高六郎ほか監修『社会心理学講座』第3巻「態度と偏見」第4分冊)昭和32年9月15日、みすず書房。

＝論 文＝

- 『Max Weberに於ける「価値」の問題』昭和27年

- 3月31日, 東京学芸大学研究報告第3輯第4部.
2. 『教育史研究の方法について—「教育文化史」と「理想型」—』昭和27年6月10日, 日本教育社会学会編「教育社会学研究」第2集.
3. 『社会及び社会集団について』『国家について』(松浦孝作・関敬吾ほか編「社会学とは何か—社会と人間—」所収) 昭和29年4月20日, 誠文堂新光社.
4. 『ナショナリズムの形成に関する一考察』昭和30年1月31日, 東京学芸大学研究報告第6集第3部.
5. 『国家権力と教育』(清水義弘編「日本教育の社会的基底」所収) 昭和32年6月15日, 国土社.
6. 『ナショナリズム』(福武直・高橋徹ほか編『講座社会学』第5巻「民族と国家」所収) 昭和33年2月25日, 東京大学出版会.
7. 『公教育制度と学校差』昭和34年11月30日, 日本教育社会学会編「教育社会学研究」第14集.
8. 『村落秩序の温存と変容』(青井和夫・濱嶋朗との共同執筆)(松浦孝作・濱嶋朗編「日本資本主義と村落構造—賃労働兼業化の社会的影響—」所収) 昭和38年7月20日, 誠信書房.
9. 『母と子の社会意識』(松原治郎との共同執筆—東京学芸大学社会学研究室「子どもの「しつけ」と道德教育」所収) 昭和38年10月20日, 日本教育社会学会編「教育社会学研究」第18集.
10. 『愛国心はどう考えられているか—日本人の愛国心—』昭和39年6月15日, 東洋館出版社「教育の時代」昭和39年6月号.
11. 『母と子の社会意識』(社会学研究室「子どものしつけの社会学的研究—富士市田子浦地区の場合—」所収) 昭和39年12月25日, 東京学芸大学研究報告第16集第3分冊.
12. 『民族と国家』(福武直・濱嶋朗編「社会学」所収) 昭和40年10月10日, 有斐閣.
13. 『「理想型」をめぐる問題』昭和40年12月30日, 日本社会学会編「社会学評論」第16巻第2号.
14. 『教育理念としての国家主義の抬頭』昭和42年6月1日, 明治図書「現代教育科学」第116号.
15. 『大衆社会と大学—「大学の大衆化」の歴史的考察—』昭和44年3月25日, 東洋哲学研究所「東洋学術研究」第8巻第1号.
16. 『A Socio-historical Approach to Educational System in Japan (1872—1964)』昭和46年11月20日, 東京学芸大学紀要第23集第3部門社会科学.
17. 『戦後ナショナリズムと青年—戦後世代の愛国心—』(濱嶋朗編「現代青年論—戦後世代の意識と行動—」所収) 昭和48年9月10日, 有斐閣.
18. 『社会体制と教育』(清水義弘監修『現代教育社会学講座』第5巻, 田村栄一郎・潮木守一編「現代社会の教育政策」所収) 昭和51年5月25日, 東京大学出版会.
19. 『戦後世代の意識—現代高校生と親の意識—』(岡崎友典との共同執筆) 昭和54年1月31日, 東京学芸大学紀要第30集第3部門社会科学.
20. 『福祉と教育』(青井和夫・直井優編「福祉と計画の社会学」所収) 昭和55年5月20日, 東京大学出版会.
21. 『国家の達成動機—教育制度的背景—戦前の教科書制度を考察の対象として—』(研究代表者, 大橋幸「達成動機—社会学的研究」所収) 昭和56年12月25日, 文部省科学研究費助成報告書.
22. 『現代高校生の国家観』(「UP」1982年114号所収) 昭和57年4月5日, 東京大学出版会.
23. 『パーソナリティの社会化』『教育社会学の方法と課題』(菊池幸子・仙崎武編「人間形成の社会学」所収) 昭和58年5月10日, 福村出版.
24. 『Intergroup Educationの課題—試論的考察—』昭和59年12月25日, 東京学芸大学紀要第36集第3部門社会科学.
25. 『良妻賢母主義教育の形成と変遷』平成2年12月20日, 武蔵大学人文学会編「武蔵大学人文学会雑誌—高橋均教授追悼号」第21巻第3・4号.
26. 『居住地域に対する住民の帰属意識について』(研究代表者, 菊池幸子「地域の教育力と住民の学習ニーズの相互関係に関する実証的研究—大都市近郊のベッドタウンを事例として—」所収) 平成5年3月31日, 文部省科学研究費助成報告書.
27. 『官僚としての校長』『社会的ネットワークの中継者としての校長』『国家と教育』『家庭と学校』(森隆夫総合企画『講座・校長学』第3巻大橋幸編「校長の社会学」所収) 平成5年11月20日, ぎょうせい.